



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	グランファーレ平岸THEパークサイド(西棟)	階数	地上11F
建設地	札幌市豊平区平岸2条12丁目70番の内	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	169 人
気候区分	2地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年11月 予定	評価の実施日	2017年6月30日
敷地面積	1,603 m <sup>2</sup>	作成者	佐々木 裕一
建築面積	485 m <sup>2</sup>	確認日	2017年6月30日
延床面積	3,792 m <sup>2</sup>	確認者	佐々木 裕一



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (184)

②建築物の取組み 68% (138)

③上記+②以外の 68%

④上記+ 68%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

### 3 設計上の配慮事項

<p><b>総合</b></p> <p>北側の公園に配慮し、建物を南側に配置した。エントランスアプローチもできる限り長めにとり、威圧感の少ない構えとしました。道路面に植栽を配置して親密感を高めました。</p>	<p><b>A 省エネルギー</b></p> <p>窓・外壁部分に断熱性能の高い部材を採用している。熱交換型ロスナイ換気扇を採用し、熱のロスを抑えている。潜熱回収型の給湯器を採用している。</p>	<p><b>D 雪処理</b></p> <p>ロードヒーティングを敷地全体に敷設し、敷地外には雪を出さない様に配慮している。</p>
<p><b>B 省資源等</b></p> <p>分別保管の可能なシャッター付24時間ゴミ保管庫を同一敷地内に設置(団地共用)している。節湯・節水型の水栓を採用している。</p>	<p><b>C 緑化</b></p> <p>緑化基準以上の緑化率とし、道路に沿って緑化を配置した計画としている。</p>	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE Sapporo2014v1.2  
 グランファール平岸THEパークサイド(西棟)

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.2  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート	実施設計段階	重点評価項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		A	B	C	D		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>											
<b>Q1 室内環境</b>											
1 音環境						4.0	0.15	3.9	1.00	3.9	
1.1 騒音						3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音						5.0	0.50	4.8	0.50		
1 開口部遮音性能						5.0	1.00	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能						-	-	5.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	5.0	0.20		
1.3 吸音						-	-	-	-		
2 温熱環境						2.0	0.35	3.3	1.00	3.0	
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.7	0.50		
1 室温						3.0	0.63	3.0	0.63		
2 外皮性能						3.0	0.38	5.0	0.38		
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-		
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式						1.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境						3.0	0.25	3.9	1.00	3.7	
3.1 昼光利用						3.0	0.30	4.6	0.30		
1 昼光率						3.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口						-	-	5.0	0.30		
3 昼光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策						3.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御						3.0	0.25	5.0	0.25		
4 空気環境						4.2	0.25	4.0	1.00	4.0	
4.1 発生源対策						5.0	0.60	5.0	0.63		
1 化学汚染物質						5.0	1.00	5.0	1.00		
2 アスベスト対策						-	-	-	-		
4.2 換気						3.0	0.40	2.3	0.38		
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能						-	-	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理						-	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-		
2 喫煙の制御						-	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>											
1 機能性						4.2	0.40	4.8	1.00	4.6	
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性						-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応						-	-	5.0	1.00		
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性						5.0	0.30	4.5	0.40		
1 広さ感・景観						-	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-		
3 内装計画						5.0	1.00	5.0	0.50		
1.3 維持管理						5.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計						5.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保						5.0	0.50	-	-		
3 衛生管理						-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性						3.3	0.30	-	-	3.3	
2.1 耐震・免震						3.0	0.50	-	-		
1 耐震性						3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能						3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数						3.9	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数						4.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						4.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔						4.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性						3.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-		
3 電気設備						3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備						4.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性						3.6	0.30	3.3	1.00	3.3	
3.1 空間のゆとり						-	-	3.6	0.50		
1 階高のゆとり						-	-	4.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ						-	-	3.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり						-	-	3.0	0.50		
3.3 設備の更新性						3.6	1.00	-	-		
1 空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-		
2 給排水管の更新性						4.0	0.20	-	-		
3 電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-		
4 通信配線の更新性						5.0	0.10	-	-		
5 設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-		
6 バックアップスペースの確保						4.0	0.20	-	-		

CASBEE Sapporo2014v1.2  
 グランファール平岸THEパークサイド(西棟)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.2  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

スコアシート	実施設計段階	重点評価項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		A	B	C	D		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>											
1 生物環境の保全と創出						3.0	0.30	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮						5.0	0.40	-	-	5.0	
3 地域性・アメニティへの配慮						3.0	0.30	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上						3.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上						3.0	0.50	-	-		
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>											
<b>LR1 エネルギー</b>											
1 建物外皮の熱負荷抑制						3.0	0.20	-	-	3.0	
2 自然エネルギー利用						3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化						5.0	0.50	-	-	5.0	
BEI 非住宅 — 住宅(専有部) 0.87						5.0	1.00	-	-		
3.1 集合住宅以外の評価(3a.3b)						-	-	-	-		
3.2 集合住宅の評価(3c)						5.0	1.00	-	-		
4 効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0	
4.1 集合住宅以外の評価						-	-	-	-		
4.1 モニタリング						3.0	-	-	-		
4.2 運用管理体制						3.0	-	-	-		
4.1 集合住宅の評価						3.0	1.00	-	-		
4.1 モニタリング						3.0	0.50	-	-		
4.2 運用管理体制						3.0	0.50	-	-		
<b>LR2 資源・マテリアル</b>											
1 水資源保護						3.0	0.20	-	-	3.0	
1.1 節水						3.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-		
1.2.1 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-		
1.2.2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減						2.9	0.60	-	-	2.9	
2.1 材料使用量の削減						2.0	0.10	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.20	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用						3.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材						3.0	0.10	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み						3.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.5	0.20	-	-	3.5	
3.1 有害物質を含まない材料の使用						4.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避						3.3	0.70	-	-		
3.2.1 消火剤						4.0	0.33	-	-		
3.2.2 発泡剤(断熱材等)						3.0	0.33	-	-		
3.2.3 冷媒						3.0	0.33	-	-		
<b>LR3 敷地外環境</b>											
1 地球温暖化への配慮						4.2	0.33	-	-	4.2	
2 地域環境への配慮						2.5	0.33	-	-	2.5	
2.1 大気汚染防止						-	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善						2.0	0.67	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制						3.5	0.33	-	-		
2.3.1 雨水排水負荷低減						-	-	-	-		
2.3.2 汚水処理負荷抑制						-	-	-	-		
2.3.3 交通負荷抑制						4.0	0.50	-	-		
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.50	-	-		
3 周辺環境への配慮						2.1	0.33	-	-	2.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-		
3.1.1 騒音						3.0	0.33	-	-		
3.1.2 振動						3.0	0.33	-	-		
3.1.3 悪臭						3.0	0.33	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制						1.6	0.40	-	-		
3.2.1 風害の抑制						1.0	0.70	-	-		
3.2.2 砂塵の抑制						3.0	-	-	-		
3.2.3 日照阻害の抑制						3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制						1.6	0.20	-	-		
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						1.0	0.70	-	-		
3.3.2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-		

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

# CASBEE 札幌



## 重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014(ver.1.3)

<b>1 建物概要</b>		BEE	1.7	BEEランク	A
建物名称	グランファール平岸THEパークサイド(西棟)	総合評価 ★★★★★			
建物用途	集合住宅				
延床面積	3,792.15 m <sup>2</sup>				

<b>2 重点項目への取り組み</b>		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>この建物は特に <b>省エネルギー性能</b> が優れています</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★★★	
	雪処理	★★★☆☆	

<b>3. 設計上の配慮事項とCASBEEスコア</b>					
<b>A 省エネルギー</b>				合計	22点 / 24点
Q1 温熱環境	スコア	4.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	2.0
Q1 光・視環境	スコア	3.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.0
<b>B 省資源等</b>				合計	14点 / 23点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	1.0	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.0
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0
<b>C 緑化</b>				合計	11点 / 16点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	3.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0			
<b>D 雪処理</b>				合計	1点 / 3点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0

<b>4 設計上の配慮事項</b>		
<b>A 省エネルギー</b> 窓・外壁部分に断熱性能の高い部材を採用している。熱交換型ロスナイ換気扇を採用し、熱のロスを抑えている。潜熱回収型の給湯器を採用している。		
<b>B 省資源等</b> 分別保管の可能なシャッター付24時間ゴミ保管庫を同一敷地内に設置(団地共用)している。節湯・節水型の水栓を採用している。	<b>C 緑化</b> 緑化基準以上の緑化率とし、道路に沿って緑化を配置した計画としている。	<b>D 雪処理</b> ロードヒーティングを敷地全体に敷設し、敷地外には雪を出さない様に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される